

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	現代の国語	単位数	2単位	学年・学科・コース	1年・普通科・普通コース、スポーツコース
使用教科書	現代の国語(数研出版)		副教材等	普通:核心漢字・新入試評論文読解のキーワード スポコ:核心漢字・国語必携ライトパーフェクト演習	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使っている。	「話すこと・聞くこと」において、自分の考えが的確に伝わるよう、自分の考えを明確にするとともに、話の構成を工夫している。	文章の内容を踏まえ、積極的に具体的事例などを用いて考えを深め、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4 5 6 7	文化 「水の東西」	・「水」を巡る日本と西洋の文化の比較を通じて、日本文化の特質について理解を深める。	○			・個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。	定期考査 課題 小テスト 授業態度
				○		・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。	
					○	・筆者の意見を踏まえた事例について粘り強く考察し適切に説明しようとしている。	
	社会 「攻撃」と「共存」	・現代のテロや戦争は、類人猿の「共存」のための攻撃とは異なるという筆者の意見を読み取る。	○			・主張と論拠など情報と情報との関係について理解すること。	
				○		・「書くこと」において、自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫している。	
					○	・文章の論理展開を粘り強く読み取って筆者の主張を理解し、学習課題に沿って自分の考えを深めようとしている。	
	思想 「大人になる」ための条件	・「大人」の定義について、一般的な内容と筆者の考えを比較しながら理解する。	○			・文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。	
				○		・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨を把握している。	
					○	・自分の考えが適切に伝わるように、主張や論拠の説明を積極的に補足しながら意見交換を行い、学習課題に沿って自分の考えをさらに深めようとしている。	
	経済 「わらしべ長者」の経済学	・経済学の原則を「わらしべ長者」の昔話を用いた文章から読み取る。	○			・文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。	
				○		・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨を把握している。	
					○	・自分の考えが適切に伝わるように、主張や論拠の説明を積極的に補足しながら意見交換を行い、学習課題に沿って自分の考えを深めようとしている。	

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
8 9 10	情報 ポスト・プライバシー 統計資料	・「アイデンティティ」が、個人自らがつくるのではなく、情報システムの中で作られていることを理解し資料から読み取る。	○			・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使っている。	定期考査 課題 小テスト 授業態度
				○		・「書くこと」で、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。	
					○	・具体的話題について、マス・メディアに掲載された情報と、インターネット上で個人が発信している情報とを積極的に集め、課題に沿って考えたことをまとめようとしている。	
思想 「コインは円形か」 言語活動 相互理解を深めるために、今何が必要か考えよう	・レトリックの意味を理解し、視点を交えることの重要性を学び、相互理解を深めるために今何が必要か、意見文を書く。	○			・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。		
			○		・「読むこと」において、目的に応じて、文章に含まれている情報を相互に関係付けながら、内容を解釈するとともに、自分の考えを深めている。		
				○	・筆者の意見や【例】を参考にしながら積極的に自分の考えを深め、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。		
言語 ものごとことば	・「ものやことばによってはじめて認識される」という「唯名論」的言語論の基本を理解する。	○			・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。		
			○		・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。		
				○	・筆者の意見を踏まえた具体的事例を粘り強く分析し、学習課題に沿って自分の考えを深めようとしている。		
11 12	科学 科学コミュニケーション	・科学的・数学的な考え方や、非論理的・感情的な考え方の両方が人間の本質であり、数学の「逆・裏・対偶」と関連した内容であることを読み取る。	○			・主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。	
				○		・「読むこと」において、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。	
					○	・筆者の表現を積極的に読み解いて、その主張を理解したうえで、学習課題に沿って自分の意見を具体的に述べようとしている。	
思想 他者を理解すること	・他者理解の難しさと我々が取るべき態度について、哲学者である筆者の意見を読み取る。	○			・主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。		
			○		・「読むこと」において、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。		
				○	・論理展開を押さえながら筆者の述べている内容を粘り強く読み解き、学習課題に沿って適切にまとめようとしている。		
1 2 3	生命 命は誰のものなのか	・近年注目される「命の自己決定権」、正解のない問題について考察した筆者の意見を読み取る。	○			・主張と論拠など情報とその関係について理解している。	定期考査 課題 小テスト 授業態度
				○		・「書くこと」において、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。	
					○	・筆者の意見を参考にしながら、根拠や具体例を用いて論理を構成し、学習課題に沿って自分の意見をまとめようとしている。	
思想 時間と自由の関係について	・「自由な時間とはどういうことか」という哲学的問題についての筆者の意見を読み取る。	○			・実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深めている。		
			○		・「読むこと」において、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨を把握している。		
				○	・同じテーマの文章を積極的に読み解き、学習課題に沿って自分の考えを発表しようとしている。		

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	言語文化	単位数	3単位	学年・学科・コース	1年・普通科・普通コース
使用教科書	言語文化(数研)		副教材等	精選古典文法(三省堂)・漢文必携(桐原書店)・古文単語315(桐原書店)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語を的確に把握し効果的に表現する資質。能力を育成することを旨とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4 5 6 7	古 古文入門「児のそら寝」 「検非違使忠明」	・古典を読むのに必要な文語のきまり、古典特有の表現などについて理解する。 ・内容や構成、展開を的確に読み取り、作品に表れているものの見方、考え方を捉える。	○			歴史的仮名遣いのきまりや、古典特有の表現、用言の活用について理解している。 登場人物の心情の変化や行動の理由について読み取ることができる。 進んで歴史的仮名遣いを理解し、説話の面白さを読み取り、他者に説明できる。	定期考査 課題 小テスト 授業態度
		・漢文の特色を知り、訓読のきまりを理解するとともに、格言に親しむ。 ・故事成語の元になった話を読むことを通して、漢文の読解に慣れ親しむ。	○			中国の古典が日本に輸入され、訓読の仕組みが生まれた歴史を理解している。 漢文の内容を読み取り、自分のものの見方や考え方を深めることができる。 故事成語が現代の日本語ではどのように使われるかを確認し、活用できる。	
		・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。	○			『伊勢物語』について構成や内容、当時の恋愛や貴族の生活について理解している。 本文中の重要語句や助動詞、助詞、和歌の修辭に着目して、本文の内容を把握できる。 「男」の心情の変化や行動について、本文を根拠に話し合うことができる。	

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
8 9 10	古歌物語「芥川」	・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。	○			『伊勢物語』と作者について知識を深め、重要語句や助動詞を理解している。	定期考査 課題 小テスト 授業態度
				○		本文全体の内容と構成をつかみ、根拠を持って読解することができる。	
					○	本文に表れた作者の考えを、資料を基に他者と話し合うことができる。	
	古歴史「菅鮑之文」	・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解することができる。	○			用いられている語句の意味や使われ方を理解している。	
				○		表現の工夫を読み取り、作者が描こうとしている主題を読み取ることができる。	
					○	読解を通して自らのものの見方、考え方を深め、意見文を書くことができる。	
	古小説「舟を編む」	・作品の内容を踏まえて、独自の観点からの辞書の編集方法を考える。	○			文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	
				○		作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	
					○	進んで作品内容を解釈し、学習課題に沿って考察しようとしている。	
11 12	古故事「虎威借狐」	・漢文の特色を知り、訓読のきまりを理解するとともに、格言に親しむ。 ・故事成語の元になった話を読むことを通して、漢文の読解に慣れ親しむ。	○			中国の古典が日本に輸入され、訓読の仕組みが生まれた歴史を理解している。	定期考査 課題 小テスト 授業態度
				○		漢文の内容を読み取り、自分のものの見方や考え方を深めることができる。	
					○	故事成語が現代の日本語ではどのように使われるかを確認し、活用できる。	
	現小説「羅生門」	・作品に描かれた人間の孤独な葛藤を読み取り、自らのものの見方、考え方を深める。 ・物語展開の把握を通して、文学表現の理解力を養う。	○			物語の展開や、登場人物とその相互関係について理解している。	
				○		下人の心情の変化について、物語の展開に即して読み取ることができる。	
				○	物語の設定の効果について粘り強く考察し、これまでの学習を生かして考えることができる。		
1 2 3	古小説「山月記」	・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。	○			語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	定期考査 課題 小テスト 授業態度
				○		他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。	
					○	『山月記』と『人虎伝』の違いとその理由を考察しようとしている。	

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	地理総合	単位数	2単位	学年・学科・コース	1年・普通科・普通コース
使用教科書	高等学校新地理総合(帝国書院) 新詳高等地図(帝国書院)		副教材等	2024 新地理要点ノート(啓隆社)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
知識:地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解している。 技能:地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする事の大切さについての自覚などを深めている。

2. 学習計画及び評価規準,評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	第1部 地図でとらえる現代社会 第1章 地図と地理情報システム ・地球上の位置と時差 ・地図の役割と種類 第2章 結びつきを深める現代社会 ・現代世界の国家と領域 ・グローバル化する世界	・位置情報の基礎として、球体の地球、緯度・経度の基本的なしくみ、地球上での位置の示し方を理解する。 ・経度の違いから時差の概念を捉え、時差計算の技能を身につけ、球面として成り立つ世界認識をもつ。	○			地球上での位置、太陽高度変化、緯度経度のしくみ、時差の計算を理解する。	授業態度 学習プリント 課題 定期考査
				○		球体の地球の観点から、図を活用して地球上の位置や時差を捉え、説明できる。	
					○	球体の地球の把握に向け意欲的に探究し、作業や考察に取り組もうとしている。	
5	第2部 国際社会と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理解 ・世界の地形と人々の生活	・世界の大地形がプレートテクトニクスとプレート境界と関連し、変動帯では大地形を形成し、地震や火山が生じることを理解する。 ・外的営力による地形形成と広がり、地形に対応した人々の生活と地形を取り巻く環境の変化について、写真や地形図などの資料を通して考える。	○			地形に関する知識と世界の地形分布の特徴、地形図の等高線や地図記号を判読し、地形や土地利用を捉えることができる。	授業態度 学習プリント 課題 定期考査
				○		世界の地形をプレートテクトニクスと関連づけ、地形と比較して考察できる。	
					○	資料の読み取りや作図の作業に意欲的に取り組み、地形と生活との関連を捉えようとしている。	
6	・世界の気候と人々の生活	・大気や海流が循環するしくみを捉え、その影響を反映した気候の地域性があることを理解する。 ・降水量と気温の特徴からケッペンの気候区分を捉え、植生や農業など生活文化に影響することを理解する。	○			大気の大循環と海洋、大気のしくみと各気候の特徴を理解し、資料から各気候と植生の関連、人々の生活を読み取り、整理できる。	授業態度 学習プリント 課題 定期考査
				○		世界規模の大気のしくみと人間生活との関連を資料から考察し、各気候による景観の違いを捉え、生活への影響を考察できる。	
					○	資料の判読を通じて、世界各地の気候や生活文化を意欲的に探究し、気候資料の作成に意欲的に取り組んでいる。	
7	・世界の言語・宗教と人々の生活	・生活文化の多様性について、宗教、言語分布や人々との関わりを資料から理解し、分布を示す要因を理解する。 ・世界の少数民族、移民、難民の問題を捉えながら、マイノリティなどをふまえた多様な人々に配慮し、自他の文化を尊重する社会の実現を考える。	○			世界の多様性を理解し、異文化を尊重する姿勢が重要性を理解し、資料から世界の宗教分布と特徴を捉えることができる。	授業態度 学習プリント 課題 定期考査
				○		生活と宗教の関連を地域性や歴史的背景をから捉え、資料をもとに考察し、難民と移民の問題を資料から捉え、考察できる。	
					○	世界の宗教の特徴をまとめ、身近な地域の外国人の受け入れなどと関連させて追究し、難民と移民の問題構造を調べ、難民問題の解決策を意欲的に探究している。	

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
8 9	・歴史的背景と人々の生活 ・世界の産業と人々の生活	・生活文化が各地の環境に基づき発達する産業を基盤に成り立つ現状を捉え、世界スケールにおける各産業の地域の特徴をグローバル化の観点で理解する。 ・産業と生活文化の関連と変化を主題図などの資料を通じて理解を深める。	○			世界全体の産業の特徴と分布を概観し、資料から世界の産業の発達を捉えることができる。	授業態度 学習プリント 課題 定期考査
				○		自然環境と産業の形成の関わりや、産業の変化をグローバル化の観点で考察できる。	
					○	身近な商品が世界規模の産業構造に位置づけられること、産業の発達を時事的話題とともに意欲的に捉えようとしている。	
10	第2章 地球的課題と国際協力 ・複雑に絡み合う地球的課題 ・地球環境問題	・持続可能な地球社会を考えるうえで、地球規模で起きている環境問題は、一国だけで対応できるものではないこと、多面的・多角的に考えていくことが必要であること、自らとかわる問題であることをSDGsをふまえて認識する。	○			SDGsの目標と趣旨を理解し、諸資料から環境問題を捉え、原因や影響を整理できる。	
				○		地球環境問題を資料からまとめ、持続可能な社会の実現の提案し、自然を守るための取り組みや具体的な対策を提言できる。	
					○	地球環境問題の理解と、それらが人々の生活に与える影響を意欲的に探究し、どのような行動ができるかを追究している。	
11	・人口問題	・人口が急増している世界の現状を捉えるとともに、人口ピラミッドや相関図などの資料から人口問題の構造と地域差を捉え、人口問題の背景や問題点を整理する。	○			人口問題を理解し、人口増加地域と人口停滞地域の人口問題の違いを整理できる。	
				○		世界の人口問題の現状を資料を比較しながらまとめ、日本の人口問題についての提言を他国と比較しながら考察できる。	
					○	世界や主要国の人口の推移を捉え、他国の事例を参考にして日本と比較しながら人口問題について意欲的に探究できる。	
12	・食糧問題 ・都市・居住問題	・持続可能な社会をつくるために、飢餓とその要因である人口問題、食糧問題について、主題図やグラフなどの資料を集め、グローバル、ローカルのそれぞれ異なる視点から根拠をもとにSDGsと関連づけ対応策を構想する。	○			世界の食料問題を主題図から現状を認識し、その自然的、社会的な背景を理解する。	
				○		食糧問題について資料から考察し、その背景とSDGsをふまえ、具体的に対策を協議できる。	
					○	人口問題と食料問題を捉え、両者のつながりを図表などを用いて意欲的に整理し、国際協力を具体的に追究しようとしている。	
1	第3部 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災 ・日本の自然環境 ・地震…津波と防災 ・火山災害と防災	・日本列島の地形と気候の特徴と、その多様性から自然の恩恵と自然災害を与える要素があることを理解する。 ・各地の自然災害を理解し、各種災害の具体的な事例を新旧の地形図、ハザードマップ、気象情報、電子地図などを利用する技能と捉える。	○			日本の自然環境の特徴と生活文化との関わりを理解できる。	
				○		日本の自然環境と生活との関わりを主題図や写真から考察できる。	
					○	自然環境の特徴と自然災害とのつながりを意欲的に探究し、過去の災害事例を調べている。	
2	・自然災害への備え	・自然災害はどのような自然環境と関係しているのか、それに対する備えはどうすれば良いのか考え、居住地域での防災・減災意識の向上につなげる。	○			災害の特徴、防災への取り組みや課題の理解、ハザードマップを活用し避難行動を考察する技能を身につけることができる。	
				○		自然災害を資料から読み取り、災害時の対策を考察し、生活圏の防災を資料から適切に判断し、課題と避難行動を協議できる。	
					○	GISなどを活用し、自然災害への対策を意欲的に探究し、災害発生時の自助・共助・公助をふまえ、身近な場面を想定して、意欲的に対策を検討しようとしている。	
3	第2章 生活圏の調査と地域の展望 ・生活圏の調査と地域の展望	・日本の地域的な課題について、身近な地域を例に取り上げ、人口の少子高齢化、過疎化を景観観察や聞き取りを通じた調査の技能を身につける。 ・現地調査と資料で得た結果をまとめ、他地域と比較して考察する技能を身につける。 ・調査結果をもとに、地域の活性化に向けたまちづくりのプランを発表する。	○			地域的課題の調査法を理解し、主題図に表現する方法と他地域と比較して考察する技能を身につけている。	
				○		調査で得られた結果を、主題図や表などに整理し、地域の特徴や課題を見つけ、まちづくりのプランを構想できる。	
					○	身近な地域の課題を見出し、作成した資料と調査結果を根拠にした課題解決に向けたまちづくりのプランを検討し、発表できる。	

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	歴史総合	単位数	2単位	学年・学科・コース	1 学年・普通科・普通コース
使用教科書	明解 歴史総合(帝国書院)		副教材等	準拠ノート『明解 歴史総合ノート』 (帝国書院)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。 ・諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力を養う。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	1部 歴史の扉 1章 歴史と私たち 2章 歴史の特質と資料 2部 近代化と私たち 序章 近代化への問い 1章 江戸時代の日本と結びつく世界	・私たちは過去の状況をどのようにして知り、伝えてきたのか理解する ・「近代化」について考察する ・18世紀の日本やアジア、ヨーロッパの結びつきについて理解する	○			近代化に関わる史資料を読み解く技術を身に付けている	定期考査 授業態度 課題 プリント
				○		「大航海時代」から「世界の一体化」へ至る交易の意義と地域の変容について考察し、自分の言葉で表現できる	
					○	中学校までの学習を踏まえて、見直しをもって学習に取り組み、問いを繰り返し洗練させていくなど、粘り強く取り組もうとする	
5	2章 欧米諸国における近代化	・欧米で起こった市民革命・産業革命により、社会はどのように変化したか理解する	○			市民社会と国民国家の形成、資本主義社会と国際分業体制確立の経緯を理解している	定期考査 授業態度 課題 プリント
				○		市民革命および産業革命の経緯から、諸改革の意義と現代社会との関わりを考察し、自分の言葉で表現することができる	
					○	市民革命や産業革命が現代社会に与えた課題について、解決策を追究しようとする	
6	3章 近代化の進展と国民国家形成	・近代化が進むなかで、欧米諸国はどのような国家を形成していったのか理解する	○			国民国家の展開と世界分割や移民の状況を理解している	定期考査 授業態度 課題 プリント
				○		国民国家の形成・発展による帝国主義が人類に与えた変化について考察し、言葉で表現することができる	
					○	国民国家や帝国主義政策が現代社会に与えた影響について、追究しようとする	
7	4章 アジア諸国の動揺と日本の開国	・近代化した欧米諸国の進出に、アジア諸国や日本はどのように対応したのか理解する	○			欧米諸国の進出によるアジア諸国の変容について理解している	定期考査 授業態度 課題 プリント
				○		アジア諸国の変容を比較・関連させて考察し、「西洋の衝撃」の歴史的意義について言葉で表現することができる	
					○	欧米諸国の進出とアジア諸国の変容が現代社会にどのような課題を生み出したかについて考察し、追究しようとする	
8	5章 近代化が進む日本と東アジア	・日本や東アジア諸国は、近代化を通じてどのように変化していったのか理解する	○			明治維新とその後の日本の変化やアジア諸国の変容について理解している	定期考査 授業態度 課題 プリント
				○		明治維新の歴史的な意義について、現代の日本への影響と関連付けて考察し、自分の言葉で表現することができる	
					○	明治維新やアジア諸国の変容が、現代社会にどのような課題を与えたかについて考察し、解決策を追究しようとする	

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
9	3部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 序章 国際秩序の変化や大衆化への問い 1章 第一次世界大戦と日本の対応	・「国際秩序の変化や大衆化」について考察する ・第一次世界大戦は、日本を含む世界の人びとにとってどのような戦争になったのか理解する	○			国際関係の視点を軸に、第一次世界大戦勃発時から終戦までの経緯と、参戦各国の社会の変化について理解している	
				○		第一次世界大戦の総力戦体制下において、列強の戦闘員・列強の非戦闘員・植民地や従属地域の人々が戦争に協力した目的について考察し、自分の言葉で表現することができる	
					○	勢力均衡に基づく国際秩序と大衆の戦争参加が、現在の社会に生み出した課題について考察し、解決策を追究しようとする	
10	2章 国際協調と大衆社会の広がり	・欧米や日本など、世界各地に広まった大衆化とは、どのようなものだったのか理解する	○			ヴェルサイユ体制によって形成された国際秩序と、国際社会や各国に生じた政治・社会・文化の変化を理解している	
				○		新しい国際秩序と大衆化の特徴について考察し自分の言葉で表現することができる	
					○	ヴェルサイユ体制に基づく国際秩序の成立と大衆社会の到来が現代社会に生み出した課題を考察し、解決策を追究しようとする	
11	3章 日本の行方と第二次世界大戦	・大衆は、どのようにして戦争を導いてしまったのか理解する	○			世界恐慌への対応が世界情勢に与えた影響と、スターリン独裁について理解している	定期考査 授業態度 課題 プリント
				○		ファシズム体制の形成から終戦に至るまで、ドイツや日本で大衆がなぜ戦争に協力していったのか考察し、自分の言葉で表現できる	
					○	大衆の戦争への加担という問題を現代社会における課題としてとらえ、その解決策を追究しようとする	
12	4章 再出発する世界と日本	・第二次世界大戦を経て、国際秩序はどのように変化したのか理解する	○			冷戦および冷戦構造の形成と、国連を中心とする平和へ向けた新たな国際秩序について、日本と関連付けながら理解している	
				○		国際連合を中心に、第二次世界大戦以前と以後の国際関係を比較することで、戦争の経験が人々に何をもたらしたのか考察できる	
					○	大戦後に形成された冷戦構造と国際連合による平和維持体制が現代社会に与える影響について考察し、解決策を追究しようとする	
1	4部 グローバル化と私たち 序章 グローバル化への問い 1章 冷戦で揺れる世界と日本	・「グローバル化」について考察する ・冷戦が展開されるなかで、日本や世界の国々はどのような選択をしたのか理解する	○			55年体制の形成から高度経済成長に至る日本の動きを、冷戦下の国際情勢を踏まえながらその中に位置づけて理解している	
				○		冷戦下の日本と世界の動向について、政治・経済の関連や諸地域間の比較を通して多面的に考察し、自分の言葉で表現できる	
					○	冷戦期における各国の動向、現在の社会においてどのような課題を生み出したのか考察し、解決策について追究しようとする	
2	2章 多極化する世界	・冷戦が展開されるなかで、日本や世界の国々はどのような経済成長を遂げたのか理解する	○			1960年～80年代を中心に、冷戦下における各国の選択と経済成長について理解する	定期考査 授業態度 課題 プリント
				○		各国の選択を比較し、「東アジアの奇跡」が起こった要因や世界史における意義について考察し、自分の言葉で表現できる	
					○	冷戦下における各国の政治的・経済的選択が、現代社会にどのような課題を生み出したのか考察し、解決策を追究しようとする	
3	3章 グローバル化のなかの世界と日本	・冷戦が終わり、グローバル化は、世界をどのように変えたのか理解する	○			冷戦終結とグローバル化の特質について理解している	
				○		グローバル化の進展やナショナリズムの強化について各地域を比較して考察し、その特質や問題点を自分の言葉で表現できる	
					○	冷戦の終結とグローバル化の進展がどのような課題を生み出したのかについて考察し、解決策について追究しようとする	

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	数学 I	単位数	3単位 (1・2学期)	学年・学科・コース	1年・普通科・普通コース
使用教科書	新編 数学 I (数研出版)		副教材等	チャート式 解法と演習 数学 I (数研出版) クリアー 数学 I (数研出版)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	第1章 数と式 第1節 式の計算	・式を、目的に応じて1つの文字に着目して整理したり、1つの文字におき換えたりすることで、適切に変形する力を培う。	○			・因数分解の公式を利用できる。	定期考査 授業態度 課題 小テスト
				○		・式を1つの文字におき換えることによって、式の計算を簡略化することができる。	
					○	・式の変形、整理などの工夫において、よりよい方法を考察しようとする。	
5	第2節 実数	・中学校までに取り扱ってきた数を実数としてまとめ、数の体系についての理解を深める。また、簡単な無理数の四則計算ができるようにする。	○			・根号を含む式の加法、減法、乗法の計算ができる。また、分母の有理化ができる。	
				○		・数直線上の2点間の距離を絶対値を用いて考えることができる。	
					○	・対称式の値の求め方に興味を示し、自ら考察しようとする。	
5	第3節 1次不等式	・不等式の解の意味や不等式の性質について理解するとともに、1次不等式を解く方法を考察したり、具体的な事象に関連した課題の解決に1次不等式を活用したりする力を培う。	○			・連立不等式の意味を理解し、連立1次不等式を解くことができる。	
				○		・ $A < B < C$ を $A < B$ かつ $B < C$ として捉えることができ、不等式を解くことができる。	
					○	・絶対値記号を含むやや複雑な方程式や不等式を解くことに取り組む意欲がある。	
5	第2章 集合と命題	・集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用できるようにする。	○			・命題の逆・対偶・裏の定義と意味を理解しており、それらの真偽を調べることができる。	
				○		・命題が偽であることを示すには、反例を1つあげればよいことが理解できている。	
					○	・3つの集合についても、和集合、共通部分について考察しようとする。	

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
6	第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ	・2次関数の値の変化やグラフの特徴を理解するとともに、2次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察する。	○			・平方完成を利用して、2次関数 $y = ax^2 + bx + c$ のグラフの軸と頂点を調べ、グラフをかくことができる。	定期考査 授業態度 課題 小テスト
				○		・放物線の平行移動を、頂点の移動に着目して、考察することができる。	
					○	・座標平面上の点と象限について、理解を深めようとする。	
6	第2節 2次関数の値の変化	・2次関数のグラフを通して関数の値の変化を考察し、2次関数の最大値や最小値を求めることができるようにする。	○			・2次関数の決定において、与えられた条件を関数の式に表現し、2次関数を決定することができる。	
				○		・定義域が変化するときや、グラフが動くときの最大値や最小値について、考察することができる。	
					○	・日常生活における具体的な事象の考察に、2次関数の最大・最小の考えを活用しようとする。	
6	第3節 2次方程式と2次不等式	・2次方程式や2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求められるようにする。	○			・2次方程式において、判別式 $D = b^2 - 4ac$ の符号と実数解の個数の関係を理解している。	
				○		・2次式が一定の符号をとるための条件を、グラフと関連させて考察することができる。	
					○	・身近な問題を2次不等式で解決しようとする。	
7	第4章 図形と計量 第1節 三角比	・三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比の相互関係などを理解できるようにする。また、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、三角比を活用して問題を解決する力を培う。	○			・三角比の相互関係を利用して、1つの値から残りの値が求められる。	
				○		・具体的な事象を三角比の問題としてとらえることができる。	
					○	・日常の事象や社会の事象などに三角比を活用しようとする。	
7	第2節 三角形への応用	・図形の構成要素間の関係を、三角比を用いて表現し定理や公式を導く力、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、正弦定理、余弦定理などを活用して問題を解決したりする力を培う。	○			・余弦定理や正弦定理を用いて、三角形の残りの辺の長さや角の大きさを求めることができる。	
				○		・三角形の面積を、決定条件である2辺とその間の角または3辺から求めることができる。	
					○	・日常の事象や社会の事象などに正弦定理や余弦定理を活用しようとする。	
12	第5章 データの分析	・データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を習得し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現する力、不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりする力を培う。	○			・分散、標準偏差の定義とその意味を理解し、それらに関する公式を用いて、分散、標準偏差を求めることができる。	
				○		・散布図を作成し、2つの変量の間の相関を考察することができる。	
					○	・変数の変換によって、平均値や標準偏差がどのように変化するか、考察しようとする。	

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	数学Ⅱ	単位数	1単位 (2・3学期)	学年・学科・コース	1年・普通科・普通コース
使用教科書	新編 数学Ⅱ(数研出版)		副教材等	チャート式 解法と演習 数学Ⅱ(数研出版) クリアー 数学Ⅱ(数研出版)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
10	第1章 式と証明 第1節 式と計算	・多項式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにする。	○			・3次式の展開の公式を利用することができる。	定期考査 授業態度 課題 小テスト
				○		・二項定理をパスカルの三角形と結び付けて考えることができる。	
					○	・恒等式の係数を決定する際に、係数比較法と数値代入法とを、比較して考察しようとする。	
11	第2節 等式・不等式の証明	・数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。	○			・相加平均・相乗平均の大小関係を利用して、不等式を証明することができる。	
				○		・与えられた条件式の利用方法を考え、等式を証明することができる。	
					○	・不等式の証明を通じて、三角不等式に興味・関心をもち、それを利用しようとする。	
12	第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式の解	・方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くことができるようにする。	○			・判別式を利用して、2次方程式の解の種類を判別することができる。	
				○		・2次方程式の解の符号に関する問題を、解と係数の関係を利用して解くことができる。	
					○	・2次方程式の解が虚数になる場合もあることに興味を示し、2次方程式の解を考察しようとする。	
1	第2節 高次方程式	・剰余の定理や因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。	○			・因数分解や因数定理を利用して、高次方程式を解くことができる。	定期考査 授業態度 課題 小テスト
				○		・多項式を1次式で割ったときの余りについて、剰余の定理で考察することができる。	
					○	・多項式を1次式で割る計算に、組立除法を積極的に利用する。	

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
2	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線	・座標や式を用いて、直線の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	○			・座標平面上において、2点間の距離が求められる。	定期考査 授業態度 課題 小テスト
				○		・直線に関して対称な点の座標を求めることができる。	
					○	・2直線の交点を通る直線の方程式に興味・関心をもち、具体的な問題に利用しようとする。	
2	第2節 円	・座標や式を用いて、円の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	○			・円外の点から引いた接線の方程式を求めることができる。	
				○		・円の中心から直線までの距離と円の半径の大小関係を代数的に処理することで、円と直線の位置関係を考察することができる。	
					○	・円と直線の位置関係を、2次方程式の判別式や、円の中心から直線までの距離と円の半径の大小関係により調べようとする。	
3	第3節 軌跡と領域	・図形を、与えられた条件を満たす点の集合として認識するとともに、不等式を満たす点の集合が座標平面上の領域を表すことを理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○			・領域を利用する1次式の最大値・最小値の求め方を理解している。	
				○		・不等式の満たす解を、座標平面上の点の集合としてみる可以尝试。	
					○	・点を満たす条件から得られた方程式がどのような図形を表しているかを考察しようとする。	

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	数学A	単位数	2単位 (2・3学期)	学年・学科・コース	1年・普通科・普通コース
使用教科書	新編 数学A(数研出版)		副教材等	チャート式 解法と演習 数学A(数研出版) クリアー 数学A(数研出版)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	図形の性質、場合の数と確率について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形の構成要素間関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
8	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数	場合の数を求めるときの基本的な考え方についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○			様々な事象に対して、順列や組合せを使い分けながら場合の数を求めることができる。	定期考査 授業態度 課題 小テスト
				○		場合の数を数える適切な方針を考察することができる。	
					○	種々の条件に対して、順列と組合せの違いに興味・関心をもつ。	
9	第2節 確率	確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○			確率の意味、試行や事象の定義を理解し、複雑な事象の確率を求めることができる。	
				○		種々の確率の考え方を活用し、さらに確率条件付き確率の違いについて、図や表などを用いて考察することができる。	
					○	複雑な事象の確率を意欲的に求めようとする。	
10	第2章 図形の性質 第1節 平面図形	平面図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○			定理を適切に利用して、線分の比や長さ、角度などを求めることができる。	
				○		静的・動的な図形の性質を多角的に捉え、考察することができる。	
					○	図形の性質やその証明に興味・関心を持つことができ、複雑な図に対しても積極的に考えようとする。	
10	第2節 空間図形	空間図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○			空間における複数の図形に対する性質や特徴を理解し、利用することができる。	
				○		空間についての性質を、与えられた条件をもとに考察することができる。	
					○	空間における図形の位置関係について、積極的に考えてみようとする。	

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
11	第3章 数学と人間の活動	さまざまな人間の活動の中から、整数を中心とした数学的な要素を見出し、数学の内容の理解を深めると同時に、現実の事象を数学的に考察できるような力を培う。	○			整数の性質を理解し、それらを活用し、数について調べたり、証明したりすることができる。また、日常的な数学的性質を理解することができる。	定期考査 授業態度 課題 小テスト
				○		整数についての性質について考察を深め、それらが表現できる。また、身の回りの事象を数学的に思考することができる。	
					○	整数の性質に興味・関心を持ち、身近な事象との関わりを積極的に考えようとする。また、日常生活と数学との関わりを感じようとする。	

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	科学と人間生活	単位数	2単位	学年・学科・コース	1年・普通科・普通コース
使用教科書	科学と人間生活 新訂版(実教出版)		副教材等	科学と人間生活の基礎知識(実教出版)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験などを行うことを通して、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な自然観を育成する。また、自然と人間生活とのかかわりおよび科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に関する観察、実験などを見通しをもって行うことなどを通して理解し、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
自然と人間生活とのかかわりおよび科学技術と人間生活とのかかわりについて理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する技能を身に付けている。	人間生活と関連のある自然の事物や現象の中に問題を見出し、見通しをもって実験・観察・調査などを行うとともに、ものごとを実証的・論理的に考察したり分析したりすることができる。	自然の事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度が養われている。自然の原理・法則や科学技術の発展と人間生活とのかかわりについて社会が発展するための基盤となる科学に対する興味・関心を高めている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4 5	序章 物理量の測定と扱い方 4章 光や熱の科学 2節 光の性質とその利用 1. 光 2. 電磁波の利用	・物理量、数値、数式のそれぞれの表し方を理解する。 ・光の性質について理解する。	○			・有効数字の意味を理解し、測定値の計算ができる。	定期考査 課題 レポート 授業ノート 授業態度
				○		・光が波であることを、回折や干渉など波の性質を持つことから理解し、身の回りの現象として見出せる。 ・自然界に見られる光の現象に関心を持ち、意欲的に調べようとする。	
6	発展 運動とエネルギー 1節 運動の表し方 2節 加速度 3節 落体の運動 探究 重力加速度の測定	・物体の変位や速度などの表し方について理解する。 ・物体の加速度を理解し、等加速度直線運動について式やグラフで考えることができる。 ・自由落下や鉛直投射について、式やグラフを用いて考えることができる。	○			・等加速度直線運動の特徴を踏まえ、関係式を導くことができる。	定期考査 レポート 授業ノート 授業態度
				○		・落下運動の特徴を理解し、式やグラフを用いて表現できる。	
					○	・重力加速度の測定など、積極的に実験に取り組んでいる。	
7	3章 生命の科学 2節 微生物とその利用 1. いろいろな微生物 2. 微生物の利用	・地球上のあらゆる場所に微生物がいることを学習させる。また、微生物の種類について理解させる。 ・微生物発見の歴史について学習させるとともに、パスツールがどのようにして生物が自然発生しないことを証明したかについて、実験の追体験を通して気づかせる。 ・発酵食品中の微生物の観察を通して、発酵が私たちの生活に深く関わっていることを理解させる。	○			・様々な微生物の存在や働きについて得た知識を、人間生活と関連づけて理解できる。	定期考査 課題 レポート 授業ノート 授業態度
				○		・微生物の発見など歴史的な事項についての学習を通し、科学的な思考をもとに考察し、表現することができる。	
					○	・微生物と人間生活の関わりについて関心を持ち、意欲的に学習しようとする。	
8	3.生態系での微生物	・下水処理に使われる活性汚泥について理解を深めさせる。 ・空気中の微生物が有機化合物を分解することを、理解させる。 ・生態系での物質循環に微生物がどのように関わっているかを学習させる。	○			・様々な微生物の存在や働き、生態系での役割について得た知識を、人間生活と関連づけて理解できる。	定期考査 課題 レポート 授業ノート 授業態度
				○		・微生物の存在や働きについて、実験を通して考察し、表現することができる。	
					○	・微生物の存在や生態系における役割について関心を持ち、意欲的に学習しようとする。	

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
9	3.ヒトの生命現象とDNA	<ul style="list-style-type: none"> DNAの構造や性質を、研究史を展開しながら理解する。 DNA、遺伝子、ゲノムの関係性を理解する。 DNAの塩基配列によってつくられるタンパク質のアミノ酸配列が決まることを理解させるとともに、転写・翻訳によってつくられたタンパク質がヒトの生命現象を支えていることを理解する。 	○			<ul style="list-style-type: none"> ゲノム、遺伝子、染色体、DNAの関係を理解している。 	定期考査 課題 レポート 授業ノート 授業態度
				○		<ul style="list-style-type: none"> DNAの遺伝情報に基づいてタンパク質が合成される過程を体系的に考察し、表現できる。 	
					○	<ul style="list-style-type: none"> DNAの性質や構造を、DNAの研究史とともに理解しようとする。 	
10	5章 宇宙や地球の科学 2節 身近な自然景観と自然災害 1. 身近な景観のなりたち 2. 地球内部のエネルギー	<ul style="list-style-type: none"> 地震や火山分布がプレートの境界面できていることを理解する。 火山のメカニズムを学習し、火山災害を引き起こす現象を理解する。 地震のメカニズムを学習し、地域において将来おこる可能性のある地震のタイプや規模などを確認する。 	○			<ul style="list-style-type: none"> 自然景観の成因や日本列島の成り立ちとその変化について理解し、自然景観の恩恵と自然災害のリスクを理解できる。 自然災害の起きる原因や条件を理解し、災害リスクを減らすための方法について総合的に判断し、それを表現することができる。 身近な自然景観や自然災害に関心を持ち、意欲的に調べようとする。 	定期考査 課題 レポート 授業ノート 授業態度
	1章 科学技術の発展 1. 科学と技術のはじまり	<ul style="list-style-type: none"> 科学技術の発展が今日の人間生活に対してどのように貢献してきたかについて理解する。 	○			<ul style="list-style-type: none"> 科学技術の発展が人間生活を豊かにし、現代社会において科学技術の重要性を理解している。 科学技術と人間生活とのかかわりに関心を持ち、資料を調べたり、友達と対話したりしながら、科学技術が果たす役割や課題について考えようとしている。 	
11	2章 物質の科学 1節 材料とその利用 1. 生活の中のさまざまな物質 2. 金属 3. プラスチック	<ul style="list-style-type: none"> 原子の構造から陽子、中性子、電子の性質を理解し、電子配置で電子殻への電子の収まり方を知る。 身のまわりの物質と原子やイオンの結びつきを考え、共有結合の形成について理解する。 プラスチックの種類や特徴、用途について理解する。 	○			<ul style="list-style-type: none"> 原子の構造及び陽子、中性子、電子の性質と原子番号1~20までの代表的な典型元素の電子配置について理解している。 イオンの生成や共有結合を電子配置と関連付けて理解している。 調べ学習を通して、金属とプラスチックやその再生利用と人間生活とのかかわりについて多面的に考えようとしている。 	定期考査 課題 レポート 授業ノート 授業態度
12							
1	4. 物質と化学反応式	<ul style="list-style-type: none"> 粒子の数に基づく量の表し方が物質であることを知る。 物質と原子量・分子量・式量との関係やモル質量との関係が分かる。 物質と気体の体積との関係を理解する。 	○			<ul style="list-style-type: none"> 物質と粒子、質量、気体の体積の関係について理解している。 	定期考査 課題 レポート 授業ノート 授業態度
2				○		<ul style="list-style-type: none"> 物質と粒子、モル質量、気体の体積について関係性に気づき、単位変換を導くことができる。 	
					○		
3	2節 食品と衣料 1. 衣食にかかわるさまざまな物質 2. 食品にかかわる物質	<ul style="list-style-type: none"> 食品を構成する物質の多くが高分子化合物であることに気づかせる。 糖類(炭水化物)の種類を説明し、糖類がどのようなものに含まれているか理解させる。 油脂の構造とその特徴を理解させる。 	○			<ul style="list-style-type: none"> 食品を構成する物質の多くが高分子化合物であること理解している。 食品を構成する物質の構造や成分の違いについて考察することができる。 食品を構成する物質の構造や成分の違いについて主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 	定期考査 課題 レポート 授業ノート 授業態度

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	体育	単位数	3単位	学年・学科・コース	1年・普通科・普通コース、スポーツコース
使用教科書	なし			副教材等	なし

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。 ・運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 ・生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。 				
評価の観点					
a. 知識・技能		b. 思考・判断・表現		c. 主体的に学習に取り組む態度	
<p>運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身につけている。また、個人及び社会生活における健康・安全について総合的に理解しているとともに、技能を身につけている。</p>		<p>自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人及び社会生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。</p>		<p>運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。また、健康を大切に、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	体づくり運動	<ul style="list-style-type: none"> ・心と体の関係に気づき、仲間と交流する。 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・のびのびとした動作で用具などを用いた運動を行うことを通して、気づいたり関わりを理解できる。 ・ねらいや体力の程度を踏まえ自己や仲間の課題に応じた強度、時間、回数、頻度を設定することができる。 ・体づくり運動の学習に自主的に取り組もうとしている。 	
	体育理論		<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツから得られる恩恵とスポーツについての課題の双方から、多角的に思考し判断し表現する学習を通して、個人がスポーツ文化を創造する主体となっていることに気づく。 	○			
5 6 7 8	器械体操 陸上競技(競走・跳躍・投擲) ダンスから選択	<ul style="list-style-type: none"> ・(器械体操)技がよりよくなり自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい演技する。 ・(陸上競技)記録の向上や競争及び自己や仲間の課題を解決するなどの多様な楽しさや喜びを味わい、各種目特有の技能を身につける。 ・(ダンス)感じを込めて踊ったり仲間と自由に踊ったり、自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、それぞれ特有の表現や踊り方を身につけて交流や発表する。 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・(器械体操)技ができる楽しさや喜びを味わい、運動観察の方法や体力の高め方などを理解するとともに、自己に適した技で演技することができる。 ・(ダンス)感じを込めて踊ったり、みんなで踊ったりする楽しさや喜びを味わい、踊りの特徴と表現の仕方や運動観察の方法を理解できる。 ・(陸上競技)記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法を理解できる。 ・(器械体操)技などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫できる。 ・(陸上競技)動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫できる。 ・(ダンス)表現などの自己や仲間の課題を発見 	授業態度 学習カード
				○			

						し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫できる。	
					○	・(器械体操・陸上競技・ダンス)自主的に取り組み、互いに助け合い教え合うことや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にできる。	
9	体育理論	・スポーツから得られる恩恵とスポーツについての課題の双方から、多角的に思考し判断し表現する学習を通して、個人がスポーツ文化を創造する主体となっていることに気づく。	○			・現代のスポーツは国際親善や世界平和に大きな役割を果たしており、その代表的なものにオリンピックやパラリンピック等の国際大会があることを理解できる。 ・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることができる。 ・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に自主的に取り組むことができる。	
9 10 11 12	球技・武道から選択 球技(ゴール型・ネット型 ベースボール型) 武道(剣道・柔道)	・(球技)勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する。 ・(武道)勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、得意技などを用いた攻防を展開する。	○			・(球技)各型の各種目において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらをゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであること、技術はボール操作とボールを持たない時の動きに大別できることが理解できる。 ・(武道)武道を学習することは自国の文化に誇りを持つことや国際社会で生きていく上で有意義であることを理解することができる。 ・(球技)ルールを守り競争したり勝敗を受け入れたりする場面によりよいマナーや行為について自己を振り返ることができる。 ・(武道)見取り稽古などから合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して練習の成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えることができる。 ・(球技)主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする。 ・(武道)自主的に取り組むとともに相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にすることができる。	授業態度 学習カード
12 1	陸上競技(長距離走)	・記録の向上や競争を通して得られる楽しさや喜びに加えて、体力や技能の程度等に関わらず「する、みる、支える、知る」などのスポーツの多様な楽しさや喜びを味わう。	○			・リズムカルに腕を振り力みのないフォームで軽快に走ることができる。 ・合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えることができる。 ・勝敗などを冷静に受け止めルールやマナーを大切にすることができる。	
2	体育理論	・スポーツから得られる恩恵とスポーツについての課題の双方から、多角的に思考し判断し表現する学習を通して、個人がスポーツ文化を創造する主体となっていることに気づく。	○			・スポーツに関わる全ての人々に、スポーツの価値を一層高める関わり方を理解できる。 ・スポーツの経済的効果と高潔さやスポーツが環境や社会にもたらす影響について理解できる。 ・体育理論の学習に主体的に取り組もうとしている。	授業態度 学習カード
2 3	体づくり運動	・健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための継続的な運動の計画立て、取り組む。	○			・リズムに乗って心が弾むような運動を行うことを通じて気づいたり関わりを理解することができる。 ・健康や安全を確保するために体力や体調に応じた運動の計画等について振り返ることができる。 ・一人一人の違いを大切にし、健康・安全を確保することができる。	

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	保健	単位数	1単位	学年・学科・コース	1年・普通科・普通コース、スポーツコース
使用教科書	現代高等保健体育(大修館書店)		副教材等	現代高等保健体育ノート(大修館書店)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関心を持ち、その意義を理解すると共に、現代社会と健康についての基礎的な事項を理解し、知識を身につけ自ら健康で安全な生活を実践できるような意欲を育てる。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
国民の健康課題や健康の考え方は、国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきていることを理解する。	現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。	現代社会と健康についての学習に主体的に取り組もうとしている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	1 単元 現代社会と健康 1 私たちの健康のすがた 2 健康のとらえ方	・さまざまな健康の考え方について例をあげて説明できる。 ・健康を成り立たせている要因について例をあげて説明できる。 ・わが国の健康水準の変化とその背景について説明できる。	○			・各種の指標や疾病構造の変化を通して国民の健康課題について、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・健康の考え方について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・健康の考え方について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	定期考査 授業態度 学習ノート
				○			
					○		
5	3 生活習慣病の予防と回復 4 がんの原因と予防 5 がんの治療と回復	・生活習慣病の種類と要因について説明できる。 ・がんの種類や原因について説明できる。 ・がんのおもな治療法や緩和ケアについて説明できる。	○			・がんには、様々な種類があり、生活習慣のみならず細菌やウイルスの感染などの原因もあることについて、言ったり書いたりしている。 ・生活習慣病などの予防と回復について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・生活習慣病とその予防について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	
				○			
					○		
6	6 運動と健康 7 食事と健康 8 休養・睡眠と健康	・健康と運動の関係について説明できる。 ・食事と健康の関係について説明できる。 ・健康と休養の関係及び適切な休養のとり方について説明できる。	○			・生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには、調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・自他の生活習慣や社会環境を分析し、リスクの軽減と生活の質の向上に必要な個人の取組や社会的な対策を整理している。 ・生活習慣病とその予防について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	
				○			
					○		
7 8	9 喫煙と健康 10 飲酒と健康 11 薬物乱用と健康	・喫煙者やその周囲の人に起こる害について説明できる。 ・飲酒による健康への影響を説明できる。 ・薬物乱用が健康や社会に及ぼす影響について説明できる。	○			・喫煙や飲酒による健康課題を防止するには、適切な対策が必要であることについて、言ったり書いたりしている。 ・喫煙、飲酒、薬物乱用の防止について、健康に関わる原則や概念を基に整理し、自他や社会の課題を発見している。 ・喫煙、飲酒、薬物乱用について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	
				○			
					○		

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
9	12精神疾患の特徴 13精神疾患の予防 14精神疾患からの回復	・精神疾患の例をあげ、発病の要因とおもな症状について説明できる。 ・精神疾患を予防する方法について説明できる。 ・精神疾患の治療について例をあげて説明できる。	○			・精神疾患の特徴や予防について、理解したことを言ったり書いたりしている。	定期考査 授業態度 学習ノート
				○		・精神疾患の予防と回復について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。	
					○	・精神疾患の予防とその回復について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	
10	15現代の感染症 16感染症の予防 17性感染症・エイズとその予防	・感染症とは何かについて潜伏期間や感染力なども含めて説明できる。 ・感染症の予防対策について3原則から例をあげて説明できる。 ・性感染症・エイズがほかの感染症と異なる点について説明できる。	○			・感染症は、時代や地域によって自然環境や社会環境の影響を受け、発生や流行に違いが見られることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	定期考査 授業態度 学習ノート
				○		・現代の感染症とその予防について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。	
					○	・現代の感染症とその予防について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	
11	18健康に関する意志決定・行動選択 19健康に関する環境づくり	・意思決定・行動選択に影響を与える要因について説明できる。 ・ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくりの特徴について説明できる。	○			・健康を保持増進するには、自らの健康を適切に管理することが必要であるとともに、環境づくりが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	定期考査 授業態度 学習ノート
				○		・健康の考え方について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。	
					○	・健康の考え方について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	
12	2単元 安全な社会生活 1 事故の現状と発生要因 2 安全な社会の形成 3 交通における安全	・事故の実態と被害の実態について説明できる。 ・交通事故防止における個人の取り組みと交通環境の整備について例をあげて説明できる。 ・交通事故防止における個人の取り組みと交通環境の整備について例をあげて説明できる。	○			・事故は、地域、職場、家庭、学校など様々な場面において発生していること、事故の発生には、周りの状況の把握及び判断、行動や心理などの人的要因、気象条件、施設・設備、車両、法令、制度、情報体制などの環境要因などが関連していることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	定期考査 授業態度 学習ノート
					○	・安全な社会づくりについて、安全に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。	
					○	・安全な社会づくりについて、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	
2 3	4 応急手当の意義とその基本 5 日常的な応急手当 6 心肺蘇生法	・応急手当の意義について説明できる。 ・日常的なけがや熱中症の応急手当の手順や方法について説明できる。 ・心肺蘇生法の方法と手順について説明できる。	○			・適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を防いだり、傷病者の苦痛を緩和したりすることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	定期考査 授業態度 学習ノート
					○	・応急手当について、安全に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。	
					○	・応急手当について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	音楽 I	単位数	2単位	学年・学科・コース	1年・普通科・スポコ・衛看
使用教科書	高校生の音楽 I (教育芸術社)		副教材等	つどい (九州高等学校音楽教育研究会) Music Note (啓隆社)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<p>音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。</p> <p>(3) 主体的・協動的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。</p>
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
<p>・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めている。</p> <p>・創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表している。</p>	<p>音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。</p>	<p>音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協動的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	校歌・遠征歌	バランスのよい姿勢、呼吸の仕方、声の響かせ方を身につけ、曲想と歌詞との関わり、旋律の特徴、言葉の抑揚を理解し、自己のイメージをもって表現を創意工夫して歌う。	○			・創意工夫をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。	授業態度、 観察評価 ワークシート
				○		・音色、旋律を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。	
					○	・正しい発声を身に付けて表現を創意工夫することに関心をもち、主体的・協動的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	
5	創作 楽典	手拍子やボディーパーカッション、唱歌、打楽器などを用いて音色を工夫したり、リズムパターンを即興で変化させたりして、表現を創意工夫してリズム合奏する。	○			・曲想と楽器の音色やリズムとの関わりについて理解し、創意工夫して表現している。	
				○		・音色、リズム、テクスチャを知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。	
					○	・音色の工夫やリズムパターンの変化と曲想との関わりに関心をもち、主体的・協動的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。	
6	鑑賞	音楽を形づくっている要素に注目して、曲のよさや美しさに気付く、表現する。	○			・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、及び音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解している。	
				○		・音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。	
					○	・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、及び音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりに関心をもち、主体的・協動的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
7 8	蒼き故郷 楽典	鼻濁音や, s 音や t 音などの子音の発音について学ぶとともに, 歌詞の内容や曲の背景を理解し, 強弱などに注意して曲にふさわしい表現を創意工夫して歌う。	○			・言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解し, 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な, 曲にふさわしい発声, 言葉の発音, 身体の使い方などの技能を身に付け, 歌唱で表している。	授業態度、 観察評価 ワークシート
				○		・音色, 速度, 旋律, 強弱を知覚し, それらの働きを感受しながら, 知覚したことと感受したことの関わりについて考え, どのように歌うかについて表現意図をもっている。	
					○	・歌詞の内容や曲の背景に関心をもち, 主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	
9 10	ギター	ギターの基本的な奏法を理解し, 表現を工夫して演奏する。	○			・曲想とギターの音色や奏法との関わりについて理解し, 創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な, 曲にふさわしい奏法, 身体の使い方などの技能を身に付け, 器楽で表している。	
				○		・音色, リズム, 速度, 旋律, テクスチャ, 強弱, 形式, 構成を知覚し, それらの働きを感受しながら, 知覚したことと感受したことの関わりについて考え, どのように演奏するかについて意図をもっている。	
					○	・曲想とギターの音色や奏法との関わりに関心をもち, 主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。	
11 12	クラス合唱	曲にふさわしい発声で表情豊かに歌う。	○			・曲想と音楽の構造や歌詞との関わりについて理解し, 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な, 曲にふさわしい発声, 言葉の発音, 身体の使い方などの技能を身に付け, 歌唱で表している。	
				○		・音色, リズム, 速度, 旋律, テクスチャ, 強弱, 形式, 構成を知覚し, それらの働きを感受しながら, 知覚したことと感受したことの関わりについて考え, どのように歌うかについて表現意図をもっている。	
					○	・曲想と音楽の構造や歌詞との関わりに関心をもち, 主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	
1	Caro mio ben 楽典	日本や諸外国の歌曲に親しみ, 表現を工夫して独唱する。	○			・言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解し, 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な, 曲にふさわしい発声, 言葉の発音, 身体の使い方などの技能を身に付け, 歌唱で表している。	授業態度、 観察評価 ワークシート
				○		・リズム, 旋律を知覚し, それらの働きを感受しながら, 知覚したことと感受したことの関わりについて考え, どのように歌うかについて表現意図をもっている。	
					○	・イタリア語による歌唱や曲の雰囲気を生かした表現に関心をもち, 主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	
2 3	西洋音楽史 式歌	曲にふさわしい発声で表情豊かに歌う。	○			・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり, 及び音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解している。	
				○		・音色, リズム, 旋律, 形式, 構成を知覚し, それらの働きを感受しながら, 知覚したことと感受したことの関わりについて考えるとともに, 音楽の意味や価値について考え, 音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。	
					○	・曲の構成や音楽に込められた作曲者の思いに関心をもち, 主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	美術 I	単位数	2単位	学年・学科・コース	1年・普通科・普通コース、スポーツコース
使用教科書	高校生の美術I (日本文教出版)		副教材等	なし	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<p>美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。 ・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 ・主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表している。 	<p>造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。</p>	<p>主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとしている。</p>

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4 5 6 7	(絵画) 鉛筆による表現 ・静物デッサン ・人物デッサン	<ul style="list-style-type: none"> ・対象を見つめ感じ取ったことや考えたことから主題を生成する。 ・表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練る。 ・表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表す。 	○	○		<ul style="list-style-type: none"> ・対象を見つめ感じ取ったことや考えたことから主題を生成している。 ・表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表している。 ・主体的に鉛筆による表現の創造活動に取り組もうとしている。 	授業態度 授業作品 制作レポート
8 9 10 11	(絵画) 切り絵による表現 ・五島の魅力を表現する	<ul style="list-style-type: none"> ・自然や文化、生活などを見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成する。 ・表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練る。 ・意図に応じて材料や用具の特性を生かし、主題を追求して創造的に表す。 	○	○		<ul style="list-style-type: none"> ・自然や文化、生活などを見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成している。 ・意図に応じて材料や用具の特性を生かし、主題を追求して創造的に表している。 ・主体的に切り絵による表現の創造活動に取り組もうとしている。 	授業態度 授業作品 制作レポート
12 1 2 3	(デザイン) ペン画による表現 ・想像の世界を表現する	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や条件、美しさなどを考え、主題を生成する。 ・デザインの機能や効果、表現形式の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練る。 ・表現方法を創意工夫し、目的や計画を基に創造的に表す。 	○	○		<ul style="list-style-type: none"> ・目的や条件、美しさなどを考え、主題を生成している。 ・表現方法を創意工夫し、目的や計画を基に創造的に表している。 ・主体的にペン画による表現の創造活動に取り組もうとしている。 	授業態度 授業作品 制作レポート
随時	(鑑賞) ・レオナルドダヴィンチの作品 ・ヨシタケシンスケの作品 ・長崎の世界文化遺産	<ul style="list-style-type: none"> ・造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解する。 ・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深める。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。 ・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。 ・主体的に作品や美術文化の鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。 	授業態度 鑑賞レポート

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	英語コミュニケーションⅠ	単位数	3単位	学年・学科・コース	1年・普通科・普通コース
使用教科書	BLUE MARBLE English Communication Ⅰ (数研出版)		副教材等	LEAP (数研出版) BLUE MARBLE English Communication Ⅰ ナビゲーションノート (数研出版)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	本文の概要を把握した上で、本文の内容を自分のことばで簡潔に伝えたり、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり書いたりすることができる。 また、本文に関連したテーマの英文を聞いて、意見をやり取りすることができる。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につけている。	コミュニケーションを行う目的や場面などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを利用して適切に表現したり伝えあったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手／書き手／聞き手／読み手に配慮しながら主体的・自律的に外国語を用いて意思疎通を図ろうとしている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	■Lesson 1 Friendships in the Digital Age	・各 Part の本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。また、本文の内容を再生できる。(以下同) ・デジタル時代における友達付き合いについて、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す/書くことができる。	○			・新出語や Key Phrases、Key Language の言語材料 (SV、SVC、SVO、SVOO、SVOC、There is [are]の表現)、本文の論理展開を理解している。	定期考査 発問評価 小テスト 提出物 パフォーマンス 評価
				○		・本文の内容理解を深めるために、各 Part 本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。また、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり/書いたりしている。(以下同じ:*)	
					○	・本文の内容に関連したテーマについて、事実や自分の考えを整理して、ペアで話し合ったり、自分の意見を伝えたりしようとしている。また、学習した機能表現を用いて、事実や自分の考えを整理し、30 語以上で自分の意見を表現しようとしている。 (以下 Lesson4まで同じ:☆)	
5	■Lesson 2 Expos: Past、Present、and Future	・[Lesson1~共通] ・万博とその開催意義について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す/書くことができる。	○			・新出語や Key Phrases、Key Language の言語材料 (現在時制、過去時制、未来を表す表現、完了形)、本文の展開を理解している。	
				○		*	
					○	☆	
6	■Lesson 3 The fascinating World of a Professional Story-teller	・[Lesson1~共通] ・講談と旭堂南春について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す/書くことができる。	○			・新出語や Key Phrases、Key Language の言語材料 (助動詞を含む受動態、used to do)、本文の論理展開を理解している。	
				○		*	
					○	☆	

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
7 8	■Lesson 4 Changing Behavior in Unique Way	・[Lesson1~共通] ・仕掛けとソーシャルデザインについて、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す/書くことができる。	○			・新出語や Key Phrases、Key Language の言語材料(不定詞・動名詞・分詞、seem to do、使役動詞+O+原形不定詞、動詞+O+to-不定詞)、本文の論理展開を理解している。 * ☆	定期考査 発問評価 小テスト 提出物 パフォーマンス 評価
9	■Lesson 5 A Journey to Peace	・[Lesson1~共通] ・ルワンダ内戦とマリールイズについて、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す/書くことができる。	○			・新出語や Key Phrases、Key Language の言語材料(分詞を伴う SVC・SVOC の表現、SVO1O2 で O2 が if-節となる表現)、本文の論理展開を理解している。 * ・本文の内容に関連したテーマについて、事実や自分の考えを整理して、ペアで話し合ったり、自分の意見を伝えたりしようとしている。また、学習した機能表現を用いて、事実や自分の考えを整理し、40 語以上で自分の意見を表現しようとしている。 (以下 Lesson8まで同じ:◇)	
10	■Lesson 6 Humans Evolve with Measurements	・[Lesson1~共通] ・単位の歴史について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す/書くことができる。	○			・新出語や Key Phrases、Key Language の言語材料(関係代名詞の継続用法、what)、本文の論理展開を理解している。 * ◇	
11	■Lesson 7 Bio-logging: Discovering Animals' Secrets	・[Lesson1~共通] ・バイオロギング研究について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す/書くことができる。	○			・新出語や Key Phrases、Key Language の言語材料(関係副詞(when / where / why / how)、本文の論理展開を理解している。 * ◇	
12	■Lesson 8 What to Do with Too Many Tourists	・[Lesson1~共通] ・オーバーツーリズムについて、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す/書くことができる。	○			・新出語や Key Phrases、Key Language の言語材料(仮定法)、本文の論理展開を理解している。 * ◇	定期考査 発問評価 小テスト 提出物 パフォーマンス 評価
1 ・ 2	■Lesson 9 Surviving in the Information Age	・[Lesson1~共通] ・正しい情報の見極め方について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す/書くことができる。	○			・新出語や Key Phrases の言語材料、本文の論理展開の理解を基に、本文内容を読み取る技能を身に付けている。 * ・本文の内容に関連したテーマについて、事実や自分の考えを整理して、ペアで話し合ったり、自分の意見を伝えたりしようとしている。また、学習した機能表現を用いて、事実や自分の考えを整理し、50 語以上で自分の意見を表現しようとしている。 (以下 Lesson10まで同じ:▽)	
2 ・ 3	■Lesson 10 The Spirit of Zen: Less Is More	・[Lesson1~共通] ・禅の精神と世界への影響について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す/書くことができる。	○			・新出語や Key Phrases の言語材料、本文の論理展開の理解を基に、本文内容を読み取る技能を身に付けている。 * ▽	

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	論理・表現 I	単位数	3単位	学年・学科・コース	1年・普通科・普通コース
使用教科書	be English Logic and Expression I Clear(いづな書店)		副教材等	be clear Essential Grammar Book (いづな書店) be English Grammar Book 24 Workbook (いづな書店)	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	各単元の文法項目を正しく用いて表現することができ、自分のことを伝え、相手の言うことを理解しようとする意欲的なコミュニケーションを取る姿勢を身に付ける。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
文法事項の意味や働きについて理解している。	各単元の題材について、筋道を立てて詳しく伝え合うことができる。	各単元の題材について、筋道を立てて伝え合おうとしている。また、自分の発話を振り返り、改善点を見出している。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	■Introduction 「やり取り」「発表」「書く」ためのウォーミングアップ ■Meeting People 自分のことを話す	【言語材料】 ・品詞の区別 ・文の種類 ・文のつなぎ方 ・現在時制 【言語の働き】 ・あいつちで関心を示す	○	○	○	動詞の現在形や現在進行形の意味や働きについて理解している。 (●) 自分のことや、今自分がしていることについて、意志や推量などを表す助動詞を用いて、伝え合う技能を身に付けている。(◎) 自分のことや、今自分がしていることについて、筋道を立てて詳しく伝え合うことができる。(■) 自分のことや、今自分がしていることについて、筋道を立てて伝え合おうとし、また、自分の発話を振り返り、改善点を見出している。(◆)	定期考査 発問評価 提出物 パフォーマンス評価
5	■Holidays and Weekends 休日・週末にしたことを話す ■Making Plans 予定について話す	【言語材料】 ・過去時制 ・未来時制 【言語の働き】 ・相手の発言を聞き直す ・相手の発言した内容について詳しい情報をたずねる	○	○	○	動詞の過去形や過去進行形、未来の表現の(●) 週末の出来事について、動詞の過去形や過去進行形を用いたり、休日の予定について、未来の表現を用いたりして(◎) 週末の出来事についてや休日の予定について、(■) 週末の出来事についてや休日の予定について、未来の表現を用いたりして(◆)	
6	■Travel 旅行について話す ■Study And Activities 学習・課外活動について話す	【言語材料】 ・現在完了形 ・過去完了形 【言語の働き】 ・話を切り出す ・同意を求める	○	○	○	動詞の現在完了形や過去完了形の(●) 旅先について、動詞の現在完了形を用いたり、達成した事柄について、過去完了形を用いたりして(◎) 旅先についておよび学習した事柄について、(■) 旅先についておよび学習した事柄について、(◆)	
7	■Food Culture 食文化について話す ■School Life 学校生活について話す	・助動詞 【言語の働き】 ・相手の発言の理由をたずねる ・依頼を受け入れる/断る	○	○	○	可能や許可、義務や確信の助動詞(●) 許可を求めることや行くことになっている場所について、可能や許可、義務や確信などを表す助動詞を用いて(◎) 許可を求めることや行くことになっている場所について(■) 許可を求めることや行くことになっている場所について(◆)	
8	■Daily Life 日常生活について話す ■Transportation Issues 交通機関の問題について話す	【言語材料】 ・助動詞 ・受動態 【言語の働き】 ・聞き手に伝わりやすい表現や話し方を考える	○	○	○	意志や推量などを表す助動詞および受動態の(●) 友達を誘いたいイベントや交通上の安全について、助動詞を用いて(◎) 友達を誘いたいイベントや交通状況について、(■) 友達を誘いたいイベントや交通状況について、(◆)	定期考査 発問評価 提出物 パフォーマンス評価

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
9	■Staying Healthy 健康について話す ■New Products 新しい製品について話す	【言語材料】 ・不定詞 ・使役動詞・知覚動詞 【言語の働き】 ・励ます ・相手の具合を尋ねる	○			不定詞の形容詞的用法や使役/知覚動詞について(●)	
				○		具合が悪くなった友人へのアドバイスや電化製品の購入について、不定詞や使役/知覚動詞を用いて(◎)	
					○	具合が悪くなった友人へのアドバイスや電化製品の購入について、(◆)	
10	■Hobbies and Interests 趣味・関心について話す ■The World of Nature 自然について話す	【言語材料】 ・動名詞 ・分詞 【言語の働き】 ・勧誘する ・感情を表す	○			動名詞や分詞について、(●)	
				○		友人への謝罪や旅先のレビューについて、動名詞や分詞を用いて(◎)	
					○	友人への謝罪や旅先のレビューについて、(◆)	
11	■Trouble and Accidents トラブルや事故について話す ■Inventions 発明について話す ■Paragraph Writing	【言語材料】 ・分詞構文 ・関係代名詞 【言語の働き】 ・同情や共感を表す ・感想をたずねる	○			分詞構文や関係代名詞について、(●)	
				○		ニュース記事の内容や発明の内容について、分詞構文や関係代名詞を用いて(◎)	
					○	ニュース記事の内容や発明の内容について、(◆)	
12	■Cities and Towns 都市や町について話す ■Living Environment 生活環境について話す	【言語材料】 ・関係副詞 ・比較 【言語の働き】 ・感情を伝える ・存在を伝える	○			関係副詞や比較表現について、(●)	
				○		記憶に残る一日や都会と地方の比較について、関係副詞や比較表現を用いて(◎)	
					○	記憶に残る一日や都会と地方の比較について、(◆)	
1	■Social Problems 社会問題について話す ■Debates 自分が住む町や生活環境に関連する題材を用いてディベートをする	【言語材料】 ・比較(最上級) 【言語の働き】 ・提案する ・問題を提起する	○			最上級の表現について(●)	発問評価 定期考査 提出物 パフォーマンス 評価
				○		スマートフォンとの付き合い方などのような社会問題について、最上級の表現を用いて(◎)	
					○	スマートフォンとの付き合い方などのような社会問題について、(◆)	
2	■Presentation 興味がある社会問題について調べ、プレゼンテーションをする ■Making a wish 願い事について話す	【言語材料】 ・仮定法 【言語の働き】 ・自分の願望やしてみたいことについて話す	○			仮定法について(●)	
				○		自分がなりたい職業について仮定法を用いて(◎)	
					○	自分がなりたい職業について(◆)	
3	■Discussion 自分の願望について設定されたテーマに基づきディスカッションをする ■Show and Tell (Presentation) 自分の将来の夢や来年度に向けた目標について、視覚的な見易さも考慮した上でプレゼンテーションを行う	【言語材料】 一年次の文法事項 【言語の働き】 ・伝わりやすさを考慮して伝える ・共感や疑問などを含むコメントや質問をする	○			一年次に学習した文法事項について(●)	
				○		将来の自分に関する願望について一年次に学習した文法事項を用いて(◎)	
					○	将来の自分に関する願望について(◆)	

令和7年度 年間学習指導計画案

科目	家庭基礎	単位数	2単位	学年・学科・コース	1年・普通科・普通コース、スポーツコース
使用教科書	家庭基礎自立・共生・創造(東京書籍)		副教材等	なし	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 ・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識とそれらに係る技能を身に付けている。	家庭や地域、社会の生活における課題を設定して解決策の構想、実践、評価・改善を行い、考察を論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身につけている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身に付けている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	家庭科を学ぶにあたって 学校家庭クラブとホームプロジェクトについて	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の意義や内容・方法・評価を理解する。 ・学校家庭クラブとホームプロジェクトについて理解し、家庭科で学習したことを実践する態度が育つ。 	○			・ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解している。	定期考査 授業態度 ワークシート 課題
				○		・自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題について考えることができる。	
					○	・自己の家庭生活や地域の生活に関心を持ち、意欲的に学習しようとする。	
4 5	第1章 生涯を見通す	<ul style="list-style-type: none"> ・自立した生活を営むために、生涯発達の視点から、ライフステージの特徴と課題を理解する。 ・生活課題に対して、意思決定を行う重要性を理解し、歩みたい人生の目標を描く。 	○			・生涯発達の視点から各ライフステージの特徴と課題について理解している。	
				○		・自立への課題と関連付けながら自身の将来について考えをまとめることができる。	
					○	・現在の自分や、将来の生活設計を考えることを、意欲を持って取り組んでいる。	
5 6	第2章 人生をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・社会制度としての家族や家族と法律を理解するとともに、様々な生き方について考える。 ・家事労働・職業労働について理解し、家庭や社会における男女の共同とワーク・ライフ・バランスについて考える。 	○			・家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭生活を取り巻く社会環境の課題について理解を深めている。	
				○		・家族の形、家庭の在り方や役割について、変化の背景と絡めて考えることができる。	
					○	・結婚、家族・家族の形、家族・家庭の役割について、自分との関りを含め、興味関心を持つようとしている。	
6	第3章 子どもと共に育つ	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の心身の特徴と発達について理解し、子どもの親・家族・周囲の人々との関わり大切さを学ぶ。 ・子どもを取り巻く社会変化の現状を理解し、子育て支援の在り方を考える。 	○			・乳幼児の心身の特徴や発達について理解し、乳幼児と関わるための基本的技能を身に付けている。	
				○		・子どもを生み育てることの意義や、子どもを取り巻く課題と解決策について考えることができる。	
					○	・生命の尊さや子どもを生み育てることの意義、子どもを取り巻く問題などについて、自分の現在・将来と結び付けながら考えようとする。	

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
7	第4章 高齢社会を生きる	・高齢社会の現状と課題を理解する。 ・高齢期の心身の特徴を理解する。 ・高齢者福祉制度について学び、課題を考える。	○			・高齢者の心身の特徴について理解している。 ・高齢者を取り巻く課題について、改善に向けた取り組みを具体的に考えることができる。 ・高齢者を取り巻く問題などについて、自分の現在・将来と結び付けながら考えようとする。	定期考査 授業態度 ワークシート 課題
9	第5章 共に生き、共に支える	・一生を通じた社会保障制度を理解する。 ・ノーマライゼーションの実現に向けて実践的な態度を身に付ける。	○			・年金・健康保険・雇用保険や、福祉制度など、生涯の社会保障制度について理解している。 ・多様な人々と共存し、助け合っていくために必要な能力や方法について考えることができる。 ・多様性を発揮して共に豊かに暮らせる社会に向けて、個人や地域の役割について考えようとする。	
9 10	第6章 食生活をつくる	・栄養と健康の関係を理解し、日常の食生活を改善していく態度を身に付ける。 ・調理に必要な基本的知識と技術を習得する。 ・生涯を通して健康・安全で持続可能な食生活を営めるようになる。	○			・日常の食生活が重要であることを理解し、栄養や調理の基礎的知識を身に付けている。 ・食に関わる安全・環境・健康などの問題や自己の食生活の問題について思考し、望ましい食生活の在り方を考えることができる。 ・自分自身の食生活について関心を持ち、意欲的に改善・向上に努めようとする。	
11	第7章 衣生活をつくる	・被服の役割を理解し、適切な被服の選択ができるようになる。 ・被服材料の種類と特徴や被服の管理方法を理解し、入手・管理において知識を活用できるようになる。 ・持続可能な衣生活について考える。	○			・被服材料の特徴や管理の方法などを理解し、好ましい被服選択や管理ができるようになる。 ・衣生活に関わる安全・環境・健康などの問題について思考し、望ましい衣生活の在り方を考えることができる。 ・自分の衣生活を取り巻く状況について関心を持ち、意欲的に改善・向上に努めようとする。	
12	第8章 住生活をつくる	・住居の機能・役割や間取りについて理解し、ライフステージや家族構成に応じた住まい方を選択できるようになる。 ・安全で環境に配慮した住生活を理解し、今後の課題を考える。	○			・住居の機能・役割、ライフステージや家族構成などと住まいの関係について理解している。 ・住生活に関わる安全・環境・健康の問題などについて思考し、望ましい住生活の在り方を考えることができる。 ・住まいの機能、住空間の計画や住環境について関心を持ち、意欲的に取り組もうとする。	
1	第9章 経済生活を営む	・消費者には権利と責任があることについて理解し、消費者市民社会について考える。 ・生涯安定した経済生活を営めるように、経済的自立の重要性や生涯を見通した働き方について理解する。	○			・消費者の権利と責任について理解し、現代の消費生活の課題を認識することができる。 ・消費者としての自覚を持ち、消費者の権利と責任を考慮することができる。 ・消費行動や環境との関わりについて理解し、具体的に実践しようとする。	
2	第10章 持続可能な生活を営む	・持続可能な社会を構築するために、持続可能な消費や生活について理解し、ライフスタイルを考える。 ・持続可能な社会を目指した国際的な取り組みとその重要性について理解する。	○			・生活と環境の関わりや持続可能な消費について理解している。 ・消費行動と環境との関わりについて、生活と関連させながら課題をみつけ、解決の方向性を判断することができる。 ・持続可能な社会参画することへ意欲的に取り組もうとする。	
3	第11章 生活を設計する	・家庭基礎の学習を活かして、自分らしい生き方について考える。	○			・生涯を見通して、生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性について理解している。 ・家庭基礎で学んだ知識や技術を確認し、これからの人生を考え、設計できる。 ・自己の生活を積極的にマネジメントしようとする。	